ダッシュボードの活用　人口：30万人以上

36　行政データの統計加工・ダッシュボード化を行い、データドリブンな行政運営を実践【兵庫県神戸市】

Point

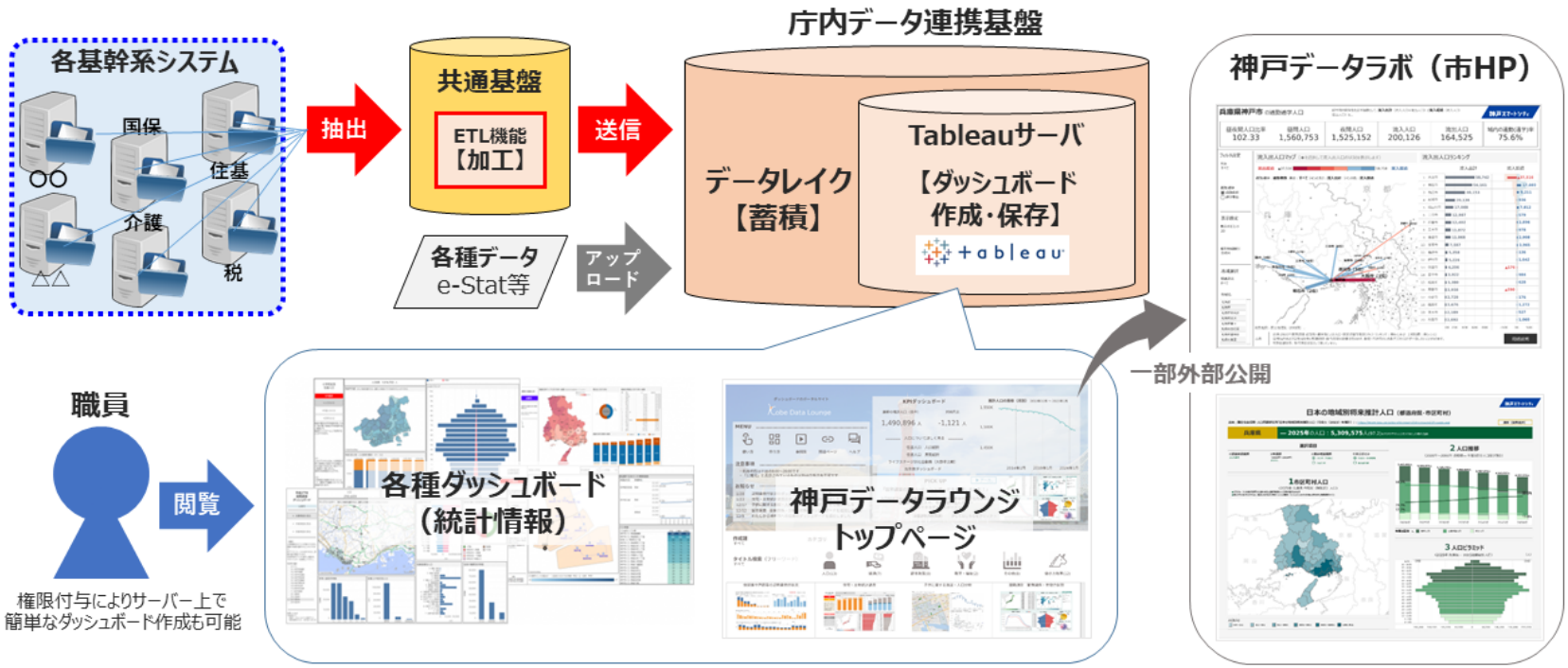
- 行政データの統計加工・ダッシュボード化により、データ収集・分析等に要する時間を削減
- 様々な政策議論でダッシュボードを利用し、データドリブンな行政経営を実践

事業の概要

○　各基幹系システムのデータを、**個人情報を特定できない形に加工のうえ抽出し、ダッシュボード等で可視化**

○　**専門知識を持たない職員でも直感的な操作でデータ分析**ができるようにするとともに、作成したダッシュボードを安全に共有できる環境（神戸データラウンジ）を実現し、**データ収集・分析等に要する時間を大幅に削減**

［サービスイメージ］



出典：総務省「第33次地方制度調査会第13回専門小委員会」資料から抜粋

ダッシュボードの活用　人口：30万人以上

36　行政データの統計加工・ダッシュボード化を行い、データドリブンな行政運営を実践【兵庫県神戸市】

事業効果

○ データの入手から資料作成までの工数を大幅に圧縮したことで、本来するべき政策議論に時間を割けるようになった。
○ 各部署の職員が各自でデータを分析して政策議論等に活用する場面が増え、エビデンスに基づいた議論が活発化
○ 神戸データラボ（市HP）にて全国版の国勢調査をダッシュボードとして公開することで、有用性の高い情報を市民や企業、他自治体等誰もが簡単に分析できるようになった。

コスト

※主にシステム導入等に係るコストを記載

イニシャルコスト ※税込　42,250千円

（内訳）
- AWS・ETLサーバー構築　6,750千円
- データ整形・システム改修等　35,500千円

（備考）デジタル田園都市国家構想交付金TYPE1による補助額：37,379千円(初年度ランニング含む)

ランニングコスト（1年あたり）※税込　58,000千円

（内訳）
- サービス利用料　36,400千円
- 庁内データ連携基盤保守・運用（AWS設定）　19,000千円
- その他　2,600千円

（備考）

スケジュール

検討開始から導入までの期間　1年10か月

スケジュールの内訳

R2.8～　庁内データ連携基盤検討開始（試作品構築）
R3.4～　庁内データ連携基盤の構築開始
R3.8～　基幹系システムから行政データの蓄積開始
R4.6～　ダッシュボードの全庁共有開始

サービス提供事業者等

サービス提供事業者	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
サービス名	Tableau Server
運用形態	パッケージ製品をクラウド環境で運用
その他参画主体	株式会社日立システムズ（共有基盤改修）、日本電気株式会社（業務システム改修）等

担当部署　神戸市企画調整局政策課　　電話　078-333-3330（代表）　　メール　－

36　行政データの統計加工・ダッシュボード化を行い、データドリブンな行政運営を実践【兵庫県神戸市】

（総務省）

取組の経緯・きっかけを教えてください。

もともとBI ツールは、統計データの解析業務で、一部の職員が使用していましたが、コロナ禍の情報発信に活用したことをきっかけに、活用が活性化しました。**閲覧者が分析期間や分析対象を選択して、見たい切り口で分析できるようになり、この取組は庁内の幹部のほか、市民からの評判もよく、BI ツールの有用性が認知**されました。

（神戸市）

取組の成果を教えてください。

データの入手から資料作成までを大幅に圧縮したことで、本来するべき政策議論に時間を割けるようになりました。また、ダッシュボードを安全に蓄積・共有するための仕組みを構築したことで、**各部署の職員が各自で分析して政策議論等に活用する場面が増え、データの取り扱いが不慣れな職員でも、政策議論の初期段階から、地域課題を複合的に分析し、エビデンスに基づいた議論**ができるようになりました。さらに、職員認証基盤と連携し閲覧制限ができるようになったことで、**センシティブな情報を取り扱う業務改革にも活用**できるようになりました。

工夫した点を教えてください。

クラウドやPoC（実証実験）を活用し、低コストで小さく始め、以下のような段階を踏んでステップアップさせました。

①コロナ禍に、ダッシュボードを活用して市民へ分かりやすい発信をしたことで、**BIツールの有用性が庁内で認知。**

②住基データのダッシュボードをチャンピオンサンプルとして作成し、**幹部会議等で頻繁に資料提供したことで、政策課の分析への信頼度が向上**

③幹部からデータ分析の依頼が増え、それに対応することで、**データを利活用し、分析する取組の重要性が高まり、ダッシュボードを庁内で共有する仕組みの構築が必要不可欠と認識**されるまでに発展。

④神戸データラウンジでダッシュボードを庁内共有したことで、**自所属でダッシュボードを作成したいという相談が増加し、実際に作成する動きが拡大**

近況や今後の展望を教えてください。

BIツールを使ったデータ分析や業務マネジメント、市民への分かりやすい情報発信が様々な所属でできるよう、**ダッシュボードを作成できる人材をさらに育成**していきます。また、可視化を中心とした現状分析だけでなく、**計量経済学の手法やプログラミングを活用した政策効果に関する分析、機械学習の内製化**にも取り組んでいきたいです。

【参考情報】 神戸市人口：149.0万人（令和７年１月１日現在）
関連ＵＲＬ：EBPM（エビデンスに基づく政策立案）の推進
（https://www.city.kobe.lg.jp/a47946/shise/kekaku/kikakuchosekyoku/ebpm/ebpm.html）
神戸データラボ（https://www.city.kobe.lg.jp/a47946/data.html）